

板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム ー未来科ー

板橋の子どもたちに「豊かな学び」と「確かな育ち」を

I 理論編

1 今、なぜ環境教育なのか

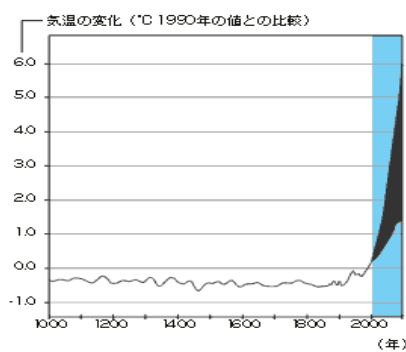
今日、私たちは20世紀、とりわけ戦後の科学技術の発達と経済成長の恩恵を受け、便利で物質的に豊かな生活を享受してきました。その反面、資源の枯渇や大量に排出する廃棄物の問題、石油やガス等の化石燃料の大量消費による地球温暖化問題、自動車交通量の増大に伴う大気汚染問題など、人間活動が活発になるにつれて環境に様々な問題が生じ、私たちの将来が危機に直面しています。このため、私たちは持続可能な社会の構築に向けて、今すぐに、私たちにできることを学び、現在のライフスタイルの転換も含め、私たち一人ひとりができることから直ちに行動を実践していくことが求められています。

2 環境教育をめぐる世界的な動向

20世紀後半には、オゾン層の破壊、地球温暖化の進行、熱帯林の減少や生物の多様性の喪失など地球環境問題が極めて深刻化し、世界的規模での早急な対策の必要性が指摘されました。このような地球規模にも及ぶ環境問題に対し、1987年(昭和62年)「環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)」は、公表した報告書「我ら共有の未来」の中で初めて「持続可能な開発」という考え方を示しました。そして、1992年(平成4年)に開催された国連環境開発会議(地球サミット)において、持続可能な開発の実現に向けた行動計画として「アジェンダ21」が採択されました。

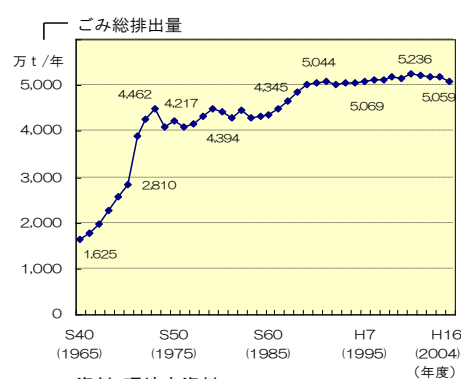
環境教育に関しては、1972年(昭和47年)の「ストックホルム人間環境宣言」においてその重要性が指摘され、1997年(平成9年)の「環境と社会に関する国際会議」の「テサロニキ宣言」で、持続可能な開発と環境教育が不可分であることを示しました。2002年(平成14年)に開催されたヨハネスブルグ・サミットでは、持続可能な開発のためには、環境教育が極めて重要な役割を担うことから、2005(平成17年)からの10年間を「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」とすることを日本が提案し、同年末の国連総会において採択されました。また、2004年(平成16年)11月にはESDの10年国際実施計画が策定されました。

●過去1000年間と今後100年間の気温変化



資料: IPCC(気候変動に関する政府間パネル) 第三次評価報告書

●全国の一般廃棄物排出量の推移



資料: 環境省資料

3 環境教育をめぐる我が国の動向

持続可能な開発の考え方は、1993年（平成5年）に制定された「環境基本法」にも盛り込まれ、1994年（平成6年）に閣議決定された環境基本計画では、「循環」「共生」「参加」「国際的取組」が実現される社会を構築することを長期的な目標とし、そのための施策の方向を明らかにしました。この中で、すべての主体が環境保全に関する行動に参加する社会を実現するため、国は環境教育・環境学習の推進や情報の提供等、事業者、国民、民間団体の行動を促すための各種施策を講ずることとしました。

その後、2003年（平成15年）7月に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」（以下「環境教育推進法」という。）が制定され、同年10月に施行されました。この法律では、持続可能な社会を構築する上で、事業者、国民及び民間団体が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることから、各主体の責務を明らかにするとともに、基本方針の策定など環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に必要な事項を定めました。この中で、区は、学校教育及び社会教育における環境教育の推進に必要な施策を講ずることが求められるとともに、その区域の自然的、社会的条件に応じた方針、計画等を作成し、公表するよう努めることとされました。また、2005年（平成17年）3月には、我が国におけるESDの10年実施計画が策定されました。

我が国では、内閣府に設置された関係省庁連絡会議において2006（平成18）年3月、「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」が策定され、実施の指針や推進方策等が明確にされました。さらに、平成20年7月に策定された教育振興基本計画においては、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策の一つとして、「持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進」が示されました。また、平成20年に告示された新しい学習指導要領においても、持続可能な社会の形成に関する事項が明記されています。

4 環境教育をめぐる板橋区の動向

板橋区では、1993年（平成5年）4月に人と環境の共生する都市を目指して「エコポリス板橋」環境都市宣言を行いました。そして、この宣言の実現に向けて1995年（平成7年）4月に環境教育の拠点として「板橋区立エコポリスセンター」を開設しました。また、1999年（平成11年）には「循環・共生を推進する環境都市～板橋～」、「パートナーシップが支える環境都市～板橋～」を基本理念とする板橋区環境基本計画を策定するとともに、エコポリス板橋クリーン条例の制定や環境マネジメントシステム（ISO14001）の構築など様々な施策を行ってきました。さらに、2005



板橋区立エコポリスセンター

年（平成17年）3月には、深刻な地球温暖化などの環境を取り巻く状況等の変化に対応していくため、この環境基本計画を改訂し、全体の重点テーマとして地球温暖化対策を位置付けました。2007年（平成19年）2月には、環境教育の推進を重点取組とし、環境教育推進プランを策定しました。

また、2007年（平成19年）3月、板橋区の環境教育の基本方針に基づき、環境教育のより一層の推進を図るため、板橋区環境教育推進協議会が設置されました。協議会には、環境教育カリキュラム部会と環境教育プログラム部会が置かれ、板橋区の環境教育がさらに充実するよう検討を重ねています。

5 環境教育の目指す環境像・社会像、幼児・児童・生徒像

(1) 望ましい環境像・社会像

板橋区環境基本計画では、基本理念として、持続可能な社会である“循環・共生を推進する環境都市”と“パートナーシップが支える環境都市”を掲げるとともに、板橋区の望ましい環境像として、「健康と安全の確保～空気のきれいなまち～」、「自然とアメニティの保全と創造～生き物とふれあえるまち～」、「地球環境問題の克服～温暖化防止をめざすまち～」、「循環型社会の構築～ごみを出さないまち」の4つが示されています。

板橋区環境教育カリキュラムは、この4つの環境像を実現するため、環境問題を解決し、持続可能な社会を担うことのできる区民を育てる素地を幼児・児童・生徒に育む取組となります。

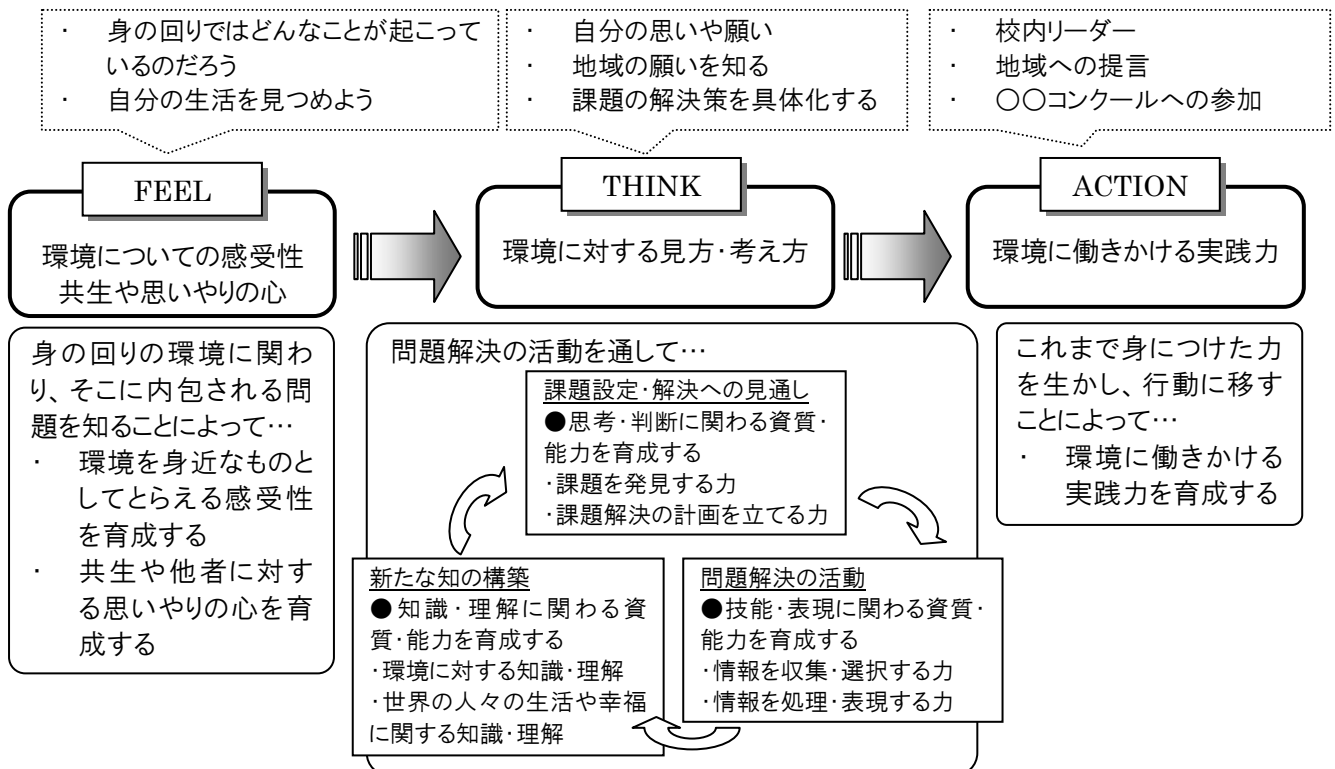
(2) 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムが目指す幼児・児童・生徒像

このような持続可能な社会を実現するために、環境教育を通して育成する幼児・児童・生徒像は次のような人としています。

人間と環境との関わりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに参画できる子ども

- ・ 板橋の環境を介して地球規模の環境意識をもち、資源が有限であることや、自らの行動が地球上のあらゆる地域や次世代とつながっていることを理解できる子ども
- ・ 環境についての豊かな感受性や共生の心を身に付け、自主的・継続的に自らの暮らしの中で環境に配慮した思いやりのある行動を実践できる子ども
- ・ 持続可能な社会に向け、自らの理解や行動にとどまらず、まわりの人々に働きかけができる子ども

(3) 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムの内容構想



6 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムにおいて幼児・児童・生徒が身に付ける資質・能力の系統性

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度				
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方			環境に働きかける実践力
			環境に対する思考・判断・表現	問題解決に必要な技能	環境に対する知識・理解	
評価・意思決定期	中3 中2	○環境問題を総合的に思考・判断し、賢明な選択・意思決定が行えるような学習活動を設定し、環境保全や環境の改善に主体的に働きかける能力や態度を育成する。				
		<p>【環境を身近なものとしてとらえる感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地球規模の環境問題を自分の生活と関連付けてとらえ、興味・関心をもってかかわることができる。 <p>【共生や他者に対する思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人と自然とが相互に関係し合っていることを意識し、自然や多様な人々との共生を大切にしようとする心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日の生活の中から、地球環境に大きな影響を与えている問題を見付け出し、解決方法について考えることができる。 ●地球環境と身近な環境とのかかわりに目を向けて、環境を構成する一員として、自らの考えを深めることができる。 ●自分で考えたことやまとめたことを効果的に発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題について取材活動やインターネット、実験などから、自ら情報を収集・選択・検証することができる。 ●地球規模の環境問題について、取材活動やインターネット、実験などの情報ソースを組み合わせ、自分の考えをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の自然・社会環境をめぐる様々な問題について、現状や歴史的・経済的背景を理解することができる。 ●人類も地球環境を構成する一員であることを自覚し、その開発には重い責任を伴うことを認識することができる。 ●「未来に持続する社会」に向けて、世界の人々の工夫や努力を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地球市民としての自覚をもち、環境保全にかかわる諸外国や各自治体の様々な活動に共感を持ち、積極的に参加することができる。 ●「未来に持続する社会」の視点に立ち、家庭や学校、地域におけるアクションプランを策定し、環境を守り育てる活動を継続して実践することができる。
認識・問題把握期	中1 小6 小5	○環境に関わる事象に、直面させるとともに、因果関係や相互関係の把握、課題解決能力を育成する。				
		<p>【環境を身近なものとしてとらえる感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域や現在の社会が抱える環境問題について、自分の生活と関連付けてとらえ、興味・関心をもってかかわることができる。 <p>【共生や他者に対する思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分も自然界の一員であることを意識し、他者を含めた自分を取り巻く環境を大切にしようとする心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域や日本の自然環境、社会環境の中から自ら課題を見付けることができる。 ●自ら見付けた課題と世界の様々な地域の環境問題を関連付けて考えることができる。 ●課題やそれに対する自分の考えを筋道立てて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目的を明確にし、取材活動やインターネットなどから、情報を収集・選択することができる。 ●集めた情報をもとに、グラフや図表などを用い、課題や自分の考えを相手意識をもってまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本や世界の自然環境や社会環境をめぐる様々な問題について、人々の生活とのかかわりをもとに、その原因・実態を理解することができる。 ●人間の環境に対する責任や使命を自覚し、身近な場面にも自分たちができる環境改善や保全に向けた取り組みがあることに気付き、理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境改善や保全について学習した内容をもとに、自らの生活様式を改善し、実践することができる。 ●自らも「未来に持続する社会」の一員であることに気付き、積極的に地域社会の環境保全活動に継続して参加することができる。
感受期(後期)	小4 小3	○自然に触れ、自然の事物・現象から感受する活動の機会を多く設定し、自然を体験するなかから、守るべき自然がどのようなものであるかとらえさせる。				
		<p>【環境を身近なものとしてとらえる感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域の自然環境や社会環境に興味・関心を持ち、意欲的にかかわることができる。 <p>【共生や他者に対する思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然のすばらしさや不思議さに感動し、命や自然を大切にしようとする心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な体験活動を通して、身近な地域の環境のよさや問題点に気付くことができる。 ●人々の生活は、環境と深くかかわっていることや、よりよい環境づくりのための人々の工夫や努力に気付くことができる。 ●課題やそれに対する自分の考えを分かりやすく表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目的を明確にした取材活動や観察・調査を行い、情報を収集・選択することができる。 ●集めた資料を効果的に活用し、課題や自分の考えをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域の自然環境や社会環境の特徴と現状について理解することができる。 ●自分たちの生活は、よりよい地域の環境を作ろうとする人々の努力の上に成り立っていることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察、飼育・栽培等の活動を通して、自分たちの生活が自然との深いかかわりの上に成り立っていることに気付き、身近な生き物や植物を大切にすることができる。 ●ゴミのリサイクルや緑のカーテンなど身近な生活を見直すことにより、自分たちの豊かな生活が限りある資源によって支えられていることに気付き、ものを大切にすることができる。

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度			
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方		環境に働きかける 実践力
			環境に対する思考・表現、必要な技能	環境に対する気付き	
感受期 (前期)	小2 小1	<p>○自然の事物や現象に親しみ触れ合う機会や場をより多く設定し、体験を通して自然に対する気付きを高める。</p> <p>【環境を身近なものとしてとらえる感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近な動植物など自然や社会と親しみ、自分からかかわろうとする。 <p>【共生や他者に対する思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然の不思議さや面白さに気付き、命や自然を大切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近にある自然に親しみをもって繰り返しかかわろうとする。 ●身の回りの自然やものを使った遊びを自分なりに考えたり工夫したり振り返ったりする。 ●身近な動植物を観察し、気付いたことや感じたことを言葉や絵、動作、劇などで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身の回りの動物や植物、自然の事象や現象、季節による様々な自然の変化などから、自然の不思議さや面白さに気付く。 ●身近な人々や社会、自然とかかわり、自分をみつめ、自分のよさや可能性に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察、飼育・栽培等の活動を通して、自分たちの生活が自然とかかわっていることに気付き、身近な生き物や植物を大切にする。 ●身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使う工夫をしたりするなどして、ものを大切にする。
	5歳児 4歳児	<p>○自然の事物や現象に親しみ触れ合う機会や場をより多く設定し、感性を養う。</p> <p>【環境を身近なものとしてとらえる感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近な動植物など自然事象に関心をもち、自分からかかわろうとする。 <p>【共生や他者に対する思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近な動植物とかかわりながら命の大切さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な環境に好奇心をもったり、身近な動植物とかかわったりして、発見を楽しんだり、生活に取り入れたりする。 ●身の回りの自然やものを使った遊びを自分なりに考えたり、遊びに使うものを作ったりする。 ●気付いたことや感じたことを話したり、絵や動きなどで表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な動植物、自然や季節の様子から、その自然の不思議さや面白さに気付く。 ●身近な人々や自然を大切にする気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●見る、世話をする、育てるなどの活動を通して、身近な生き物や植物の生命を感じたり、親しみをもって接したりする。 ●身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切にする。

7 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムにおける活動事例について

幼児については1週間から1カ月程度の活動を進める。また、小学校については各学年15時間程度、中学校においては10～15時間程度の学習活動を設定する。学習活動は、主として「生活科」「総合的な学習の時間」において実施するものとする。

(1) 環境教育カリキュラム事例開発の視点

● よりよい環境づくりの主体としての思考力・判断力・実践力を育成する

- ① 感受性
環境に関する事象に興味・関心をもったり、意欲的にかかわったりする等の環境に対する豊かな感受性
 - ② 課題発見力
環境や環境問題に対して進んで働きかけ、自ら課題を発見する力
 - ③ 計画力
課題解決のための予想を立て、その予想に基づいて観察・実験・調査等を計画する力
 - ④ 読解力
問題解決の過程において得られる情報を解釈したり、因果関係を推論したりする力
 - ⑤ 情報収集力
問題解決に必要な情報を収集・選択したり、得られた情報を分類・整理したりする力
 - ⑥ 情報発信力
必要な情報を処理・加工して効果的に発信する力
 - ⑦ 実践力
環境保全活動等の実践に自ら参画する力
- #### ● 他者に対する「思いやり」の心を育み態度化を図る
- ① 合意形成力
自分の考えや意見をもって表現するとともに、相手の立場や考えを理解し合意を形成していく力
 - ② 公正な判断力
合理性や客観性を伴って公正に判断する力

(2) 環境をとらえる視点

循環	地球上では、様々な物質やエネルギーの循環がなされている。人間の活動によって循環が阻害されることがあるが、環境負荷を減らし、循環型社会の実現を目指すことが大切である。
多様性	地球上の生物は、数十億年に及ぶ進化の過程を経て、様々な姿や生活様式を見せている。生物多様性は、生態系の多様性、種の多様性、遺伝的多様性という三階層でとらえることができる。各階層における保全を考えることが必要である。
生態系	生物とそれを取り巻く土壌、水、大気、太陽光などの非生物的環境との間の相互関係からなる自然のシステムのことを生態系という。
共生	異なる種の生物が行動や生理活動において互いに緊密な関係を保ちながら生活している現象をいう。人間間の関係のようにより広義に使われることもある。
有限性	再生産のできない燃料資源など、自然の資源は基本的に有限と考えられる。これらの資源を次世代のために大切にしていける必要がある。
保全	自然に手を加えずに保存するのではなく、自然の状態を調べ、適切に手を加えながら管理することによって積極的に自然を保護しようとする考え方が保全である。自然と人間が持続可能な関係を保ちつつ生活していくことが必要である。

上記のような環境をとらえる視点について、幼児・児童・生徒の発達段階に応じて、内容的な偏向がないよう活動内容を設定した。その際、「身近な環境」から「全地球規模の環境」への視野の広がり、「自らの生活を見直すこと」から「地域社会生活に自らが働きかけていくこと」等のように、環境をとらえる各視点についての取組が幼児・児童・生徒の発達段階に応じてスパイラルに繰り返し展開され、資質能力の向上を図ることができるようにした。

8 環境教育カリキュラム部会における審議経過について

平成19年6月19日～平成19年11月26日まで計7回、平成22年6月28日～平成22年12月6日まで計5回、合計12回の環境教育カリキュラム部会を開催し、審議を行いました。

- (1) **第1回** 日時 平成19年6月19日(火)14時～16時
場所 板橋区立グリーンホール502会議室
議題 ①環境教育カリキュラム部会の概要について
審議内容
 - 指導室(事務局)より、環境教育カリキュラムをつくるに至った経緯、趣旨および計画について説明した。
 - どのようにカリキュラムを作成していくかについて協議を行った。
 - 各委員が小学校と中学校のそれぞれの立場で、「児童・生徒が7年間(小3～中3)に身に付ける資質・能力・態度」についてのカリキュラム骨子案を次回までに検討してくることを決めた。
- (2) **第2回** 日時 平成19年7月12日(木)14時～16時
場所 板橋区役所8階教育委員会室
議題 ①環境教育において児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力の観点について
②資質・能力の系統性について
審議内容
 - 各委員が検討してきたカリキュラム骨子案をもとに検討を行った。
 - 感受期(～小3・小4)、認識・問題把握期(小5、小6、中1)、評価・意思決定期(中2、中3)の3つの発達段階で進めることを決めた。
 - 身に付けたい資質・能力・態度については、「感受性」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」、「実践力」の5本軸とし、「感受性」からスタート、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の問題解決の3本柱を経て、ゴールは「実践力」というプランで進めることを決めた。
 - 各委員が次回までに現教科の中から「身に付けたい力」を洗い出してくることを決めた。
- (3) **第3回** 日時 平成19年7月25日(水)13時30分～15時45分
場所 板橋区立グリーンホール402会議室
議題 ①各発達段階における資質・能力・態度の具体的内容について
審議内容
 - 各委員が各教科から洗い出してきた「身に付けたい力」について検討を行った。
 - 児童・生徒が7年間で身につける資質・能力・態度の構成要素について検討を行った。
 - 各発達段階(感受期、認識・問題把握期、評価・意思決定期)における資質・能力・態度の具体的内容の検討を行った。
- (4) **第4回** 日時 平成19年8月7日(火)14時～16時30分
場所 板橋区役所8階教育委員会室
議題 ①各発達段階における資質・能力・態度の具体的内容について
審議内容
 - 各発達段階(感受期、認識問題把握期・評価・意思決定期)における資質・能力・態度の具体的内容の検討を行った。
 - 「教科」との関連については、「総合的な学習の中での独立単元型」の方向で進めることを決めた。
- (5) **第5回** 日時 平成19年9月4日(火)14時～16時20分
場所 板橋区役所8階教育委員会室
議題 ①板橋区環境教育カリキュラムに沿った学習活動例の検討
審議内容
 - 各発達段階(感受期、認識・問題把握期、評価・意思決定期)ごとに、具体的な活動事例について検討した。
- (6) **第6回** 日時 平成19年10月12日(金)14時～16時
場所 板橋区立グリーンホール101会議室
議題 ①板橋区環境教育カリキュラムに沿った学習活動例について
審議内容
 - 認識問題把握期を中心に活動事例の検討を行った。
- (7) **第7回** 日時 平成19年11月26日(月)14時～16時
場所 板橋区役所8階教育委員会室
議題 ①板橋区環境教育カリキュラムにおける学習活動の検討

審議内容

- 第6回までに検討した各発達段階（感受期，認識・問題把握期，評価・意思決定期）の活動事例について最終的な検討を行った。

(8) 第8回 日時 平成22年6月28日（月）14時45分～16時45分

場所 板橋区立志村第四中学校 校長室

- 議題 ①環境教育カリキュラム部会の概要について
②平成22年度カリキュラム作成等の計画について

審議内容

- 指導室（事務局）より，板橋区環境教育カリキュラム作成に至る経緯，趣旨及び計画について説明した。
- 幼児・児童（小学校第1学年及び第2学年）の段階を「感受期（前期）」と定義付けた。
- 「板橋区環境教育カリキュラムにおいて幼児・児童・生徒が身に付ける資質・能力・態度の系統性」の幼児・児童（小学校第1学年及び第2学年）の骨子について検討した。
- 3分科会（環境についての感受性／環境に対する見方・考え方／環境に働きかける実践力）に分け，カリキュラム骨子案を次回までに検討してくることを決めた。

(9) 第9回 日時 平成22年8月11日（水）10時～12時

場所 板橋区役所 8階 教育委員会指導室 面接室

- 議題 「板橋区環境教育カリキュラムにおいて幼児・児童・生徒が身に付ける資質・能力・態度の系統性」の内容について

審議内容

- 各委員が検討してきた案を基に3分科会で検討を行った。
- 身に付けたい資質・能力・態度の「環境に対する見方・考え方」について、新しい学習評価の策定に伴い、「思考・判断・表現」，「技能」，「知識・理解」の3本軸とすることを決めた。
- 各委員が今まで実践してきた中から具体的な活動事例を洗い出してくることを決めた。

(10) 第10回 日時 平成22年9月6日（月）15時30分～

場所 板橋区役所 8階 教育委員会室

- 議題 ①「板橋区環境教育カリキュラムにおいて幼児・児童・生徒が身に付ける資質・能力・態度の系統性」の内容について
②「板橋区環境教育カリキュラム活動事例」〈感受期（前期）〉の内容検討

審議内容

- 幼児・児童が身に付ける資質・能力・態度の主として「環境に対する見方・考え方」の具体的内容について検討を行った。
- 環境をとらえる視点に沿った具体的な実践事例について各委員から報告された。
- 報告された内容を基に、次回の部会で内容の詳細を検討することを決めた。

(11) 第11回 日時 平成22年10月28日（木）15時30分～

場所 板橋区役所 7階 701会議室

- 議題 板橋区環境教育カリキュラム【感受期（幼稚園から小学校2年生）】における実践事例の具体的内容について

審議内容

- 各委員から出された実践事例を基に作成した実践事例のねらい、評価の観点、指導計画、評価等、具体的内容について幼稚園分科会と小学校分科会に分かれ検討を行った。
- 各部会で話し合った内容を基に、次回の部会で内容の詳細を検討することを決めた。

(12) 第12回 日時 平成22年12月6日（月）15時～

場所 板橋区役所 8階 教育委員会室

- 議題 板橋区環境教育カリキュラム【感受期（幼稚園から小学校2年生）】における実践事例の具体的内容について

審議内容

- 第4回部会の内容を受けて、各委員が修正した実践事例のねらい、評価の観点、指導計画、評価等、具体的内容について幼稚園分科会と小学校分科会に分かれ検討を行った。
- 各部会で話し合った内容を全体会で報告し合い、実践事例の内容の最終確認を行った。

感受期【前期】（幼稚園から小1・2）

■ 感受期【前期】のねらいと実践事例一覧

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度			
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方		環境に働きかける 実践力
			環境に対する思考・表現 必要な技能	環境に対する気付き	
感受期 (前期)	小2 小1	○自然の事物や現象に親しみ触れ合う機会や場をより多く設定し、体験を通して自然に対する気付きを高める。			
	5歳児 4歳児	○自然の事物や現象に親しみ触れ合う機会や場をより多く設定し、感性を養う。			

●実践事例

No.	1	活動名	落ち葉やドングリで秋の自然を感じて（4歳児）	活動に要する期間	1週間程度
環境をとらえる視点			循環 (多様性) (生態系) 共生 有限性 保全		
概要		FEEL	THINK・ACTION		
		・ドングリや落ち葉などの秋の自然物にふれ合おう。	・落ち葉やドングリを使った遊びを考えたり、遊ぶものを作ったりしよう。 ・身の回りの自然に進んで親しみ、生活に取り入れよう。		
No.	2	活動名	紙を大切に使おう（4歳児）	活動に要する期間	1カ月程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 (有限性) 保全		
概要		FEEL	THINK・ACTION		
		・絵を描いたり工作で使ったりするいろいろな紙の片付け方を考えよう。	・いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるように工夫しよう。 ・紙だけでなく身近にある他の物も無駄なく繰り返し使おう。		
No.	3	活動名	ダンゴムシを育てよう（5歳児）	活動に要する期間	2週間程度
環境をとらえる視点			循環 (多様性) (生態系) (共生) 有限性 保全		
概要		FEEL	THINK・ACTION		
		・園庭にいるダンゴムシを自分たちの手で育てよう。	・長く飼うためにどうしたらよいか考えよう。 ・分かったことを身の回りにはいる他の生き物を育てるときに生かそう。		
No.	4	活動名	アサガオとともにだち（1年）	活動に要する時間	14時間程度
環境をとらえる視点			循環 (多様性) (生態系) (共生) (有限性) 保全		
概要		FEEL	THINK・ACTION		
		・自分の手でアサガオを育てよう。	・工夫して育てよう。 ・花や葉、種、実や蔓を使って遊んだり工夫して作品を作ったりしよう。 ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。		
No.	5	活動名	うごくおもちゃを作ろう（2年）	活動に要する時間	9時間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 (有限性) 保全		
概要		FEEL	THINK・ACTION		
		・牛乳パックや段ボール等から動くおもちゃを作ろう。	・動くおもちゃを作る材料として、再利用して使える身の回りのものを自分なりに探そう。 ・身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりしよう。		
No.	6	活動名	土ってふしぎだね（2年）	活動に要する時間	16時間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 (生態系) 共生 有限性 (保全)		
概要		FEEL	THINK・ACTION		
		・野菜を工夫して育てよう。	・土作りをして、春植え野菜を育てよう。 ・土にパンやトマト、ポリエチレン袋等を埋め、3カ月後の様子から土の不思議について考えよう。 ・土の不思議さや素晴らしさ、働きを生かして、秋植え野菜を育てよう。		

1 「落ち葉やドングリで秋の自然を感じて」

1 ねらい

- (1) 近くの公園や小学校に行ってドングリや落ち葉を拾い集めたり、触れたりする活動を通して、秋の自然にふれ、季節の移り変わりや自然のすばらしさを実感する心を育む。
- (2) 身の回りの自然の中で、落ち葉やドングリを使った遊びを自分なりに考えたり、遊ぶものを作ったりして、自然にかかわりながら遊ぶ。

2 評価の視点

評価の視点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ドングリや落ち葉を拾い集めたり、触れたりすることに興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> ドングリや落ち葉を集めたり触れたりする活動を楽しむ。 近くの公園や小学校で拾い集めたドングリや落ち葉を使った遊びを自分なりに考えたり、遊びに使うものを作ったりする。 気付いたことや感じたことを話したり、動きで表現したりする。
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や季節の移り変わりを感じることから、自然の不思議さや面白さに気付く。 身近な自然を大切にしたい気持ちをもつ。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある自然にかかわりながら、身近な植物の生命を感じ、自然に親しみをもって接する。

3 指導計画【1週間程度】

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
F E E L	○ 近くの公園や小学校に落ち葉やドングリ集めに行く。 ドングリが落ちていることに気付き拾って集め始める。	◎ 一年を通して継続的に同じ公園や小学校に行き、季節の移り変わりに気付くことができるようにする。 ◇ 公園や小学校への下見では、気付かせたい秋の草木や、ドングリが拾える場所などを調べておく。 ◇ 幼児が活動できる時間帯や場所などについて事前に依頼し、小学校との連携を図る。
	○ 秋になって色づいた葉や落ち葉に気付く。 また、いろいろな形や大きさのドングリがあることに気付く。	◇ 「いろいろな色があるんだね。」などと一緒に落ち葉やドングリを拾い、落ち葉の色やドングリの形や大きさが様々であることに気付かせる。 ◇ 「すごいね。」などと幼児の喜びや発見を共感的に受け止める。
	○ さらに様々なところへ行って落ち葉やドングリを集める。	◎ ビニール袋を大中小と数種類用意し、自分に必要な量を集められるようにする。
	○ 拾った落ち葉やドングリを教師に見せる。	◆【環境についての感受性】 ・ ドングリや落ち葉を拾い集めたり、触れたりすることに興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。
	○ 家の近くや通園時、園庭で見る落ち葉や秋の草木のことを思い出す。	◆【共生や思いやりの心】 ・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
T H I N K ・ A C T I O N	<p>○ 拾ってきたどんぐりや落ち葉を自分なりに工夫して、着るものや冠作りをする。</p> <p>○ 小さな箱の中に仕切りを作り、どんぐりが転がる道を考える。(どんぐりゲーム)</p> <p>○ 落ち葉のプールで落ち葉の感触を味わいながら寝たり、落ち葉を上へ放り投げたり、かけ合ったりして遊ぶ。</p> <p>○ どんぐりや落ち葉で遊んだことを思い出し、さらに着るものの飾りを増やしてお姫様ごっこをしたり、新しいどんぐりゲームに挑戦したり、プールの落ち葉で新しいごっこ遊びをしたりする。</p> <p>○ 園庭に落ちている秋の草木や落ち葉を使って自分なりに工夫したり、遊んだりする。</p>	<p>◎ カラーポリエチレン袋を3か所切って、穴を開けて着られるようなものや冠の土台を用意しておく。</p> <p>◇ 「わあ、きれい。」「どんなふうにつけたの？」と大きく驚いて共感したり問いかけたりする。</p> <p>◇ 幼児が扱いやすい大きさや重さの箱を保護者に依頼して集めておく。</p> <p>◎ 製作コーナーに空箱や仕切りを作る厚紙、のり、はさみなどを用意しておく。</p> <p>◎ 移動式のプールに集めた落ち葉を入れておき、自由に遊べるようにしておく。</p> <p>◇ 幼児の発想や工夫を認め、意欲を高める。</p> <p>◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんぐりや落ち葉を集めたり触れたりする活動を楽しむ。 ・ 近くの公園や小学校で拾い集めたどんぐりや落ち葉を使った遊びを自分なりに考えたり、遊びに使うものを作ったりする。 ・ 気付いたことや感じたことを話したり、動きで表現したりする。 <p>〈気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な自然や季節の移り変わりを感じることから、自然の不思議さや面白さに気付く。 ・ 身近な自然を大切にしたい気持ちをもつ。 <p>◎ その日の活動に応じて園庭に落ちている落ち葉を、あえてそのままにしておく。</p> <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの自然にかかわりながら、身近な植物の生命を感じ、自然に親しみをもって接する。

4 評価

- (1) どんぐりや落ち葉を集めたり触れたりする活動を通して、発見を楽しむ姿が見られたか。
- (2) 自分で拾ったどんぐりや落ち葉を遊びに生かしたり、それを使って友達とかかわったりしていたか。

板橋区環境教育カリキュラム活動事例 〈感受期(前期)〉【4歳児】
2 「紙を大切に使う」

1 ねらい

- (1) 絵を描いたり工作で使ったりしたときの残り紙やいろいろな種類の紙の片付け方を考えることを通して、ものを無駄なく大切にしようとする心を育む。
- (2) いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるように工夫することを通して、ものには限りがあることを実感し、大切さに気付く。

2 評価の視点

評価の視点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方に興味・関心を持ち、自分から片付けようとする。 ・ 身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方を工夫することを通して、いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるよさを発見する。 ・ 気付いたことや感じたことを話したり、表現したりする。
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りにある紙を無駄なく繰り返し使う工夫から、もの大切さに気付く。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切ににする。

3 指導計画【1カ月程度】(2学期後半)

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
F E E L	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製作コーナーで絵を描いたり、製作をしたりした後に片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のクレパスやハサミは引き出しにしまう。 ・ いらない紙をリサイクルボックスに入れる。 ・ まだ使っていない紙は、製作コーナーの棚に戻す。 ○ 一部使った紙や切れ端の紙でまだ使えるものをリサイクルボックスに入れようとして迷う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「紙はどこに片付けようか。」と問いかけ、自分たちで片付け方やルールを考えさせる。 ◎ 製作コーナーの横に段ボール箱の「リサイクルボックス」を常に置いておく。 ◇ 捨てるのはもったいないという幼児の気付きを受け止め、ものへの接し方を感じていくことができるようにする。 ◆【環境についての感受性】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方に興味・関心を持ち、自分から片付けようとする。 ◆【共生や思いやりの心】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
THINK・ACTION	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「それまだ使えるよ。」「捨てたらもったいないんじゃない。」と言う幼児がいる。 ○ 「先生、この紙捨てたらもったいないよね。」と教師に確認に来る。 ○ 箱に気付いた幼児が、「ここに入れればいいんじゃない。」と教える。 ○ 「もったいないボックスだ。」「もったいないボックスだ。」と言いながら紙をその中に入れる。 ○ カードを作ったり製作したりするときには、「もったいないボックス」から紙を選んで使う。 ○ 紙を片付けるときは、「リサイクルボックス」か「もったいないボックス」かを考えて入れるようになる。 ○ 家で絵を描いたりものを作ったりした後も、同じように紙を無駄なく繰り返し使う。 ○ 身の回りの廃材や空箱、カップなどをすぐ捨てずに考えて使うなど、ものを大切にするようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 幼児同士で解決していく様子を見守り、必要に応じて助言する。 ◎ 片付けをする時に運んだり持ち上げたりするのに扱いやすい大きさの箱をいくつか用意しておく。 ◇ 幼児の言葉に共感し、工夫を受け止め、片付けへの意欲を高める。 <p>◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方を工夫することを通して、いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるよさを発見する。 ・ 気付いたことや感じたことを話したり、表現したりする。 <p>〈気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りにある紙を無駄なく繰り返し使う工夫から、もの大切さに気付く。 <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切にする。

4 評価

- (1) 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方に興味をもち、自分からかかわろうとしていたか。
- (2) 紙の片付け方やルールについて友達と考えを出し合い、身の回りのものを無駄なく繰り返し使うことのよさを味わっていたか。

3 「ダンゴムシを育てよう」

1 ねらい

- (1) 園庭にいるダンゴムシを集めたり、ダンゴムシに触ったりする活動を通して、身近な自然環境に対する感受性と自然や生命のすばらしさに感動できる心を育む。
- (2) ダンゴムシを長く飼う方法を自分なりに考えながら世話をすることを通して、身近な生き物を大切にすることを大切にする気持ちをもつ。

2 評価の視点

評価の視点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭にいるダンゴムシに興味・関心を持ち、自分からかかわろうとする。 ・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
方 ・ 考 え 方	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダンゴムシを見付けたり触れたりする活動を楽しむ。 ・ ダンゴムシを長く飼う方法を図鑑で調べたり自分なりに考えたりして、世話を する。 ・ 気付いたことや感じたことを話したり、動きで表現したりする。
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生き物の様子から、自然の不思議さや面白さに気付く。 ・ 身近な生き物を大切にしようとする気持ちをもつ。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ ダンゴムシを見る、飼うなどの活動を通して、身近な生き物の生命を感じたり、 親しみをもって接したりする。

3 指導計画【2週間程度】

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
F E E L	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭にいるダンゴムシを探しに行く。 ○ ダンゴムシを見つけたことを教師や友達に知らせたり、見せにきたりする。 ○ ダンゴムシに指で触ることを通して、様々なことに気付く。 例： 触れると丸まる。 足がたくさんある。 背中に模様がある。 等 ○ ダンゴムシを集める。 ○ ダンゴムシのよくいる場所を教師や友達に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ダンゴムシやアリ、ミミズなど、園庭にいる生き物に触れる機会を1年間を通して、設定する。 ◇ 「ほんとだ！」と幼児の気付きを認め、幼児の言葉を繰り返す。 ◇ 幼児が様々な特徴に気付けるように言葉をかける。 ◇ 「すごいね。」と幼児の喜びや発見を共感的に受け止める。 ◎ プリンカップをいくつか用意しておき、ダンゴムシを集められるようにする。 ◆【環境についての感受性】 ・ ダンゴムシを集めたり、実際に触れたりすることに興味・関心を持ち、自分からかかわろうとする。 ◆【共生や思いやりの心】 ・ 身の回りに生きている生き物や命の大切さに気付く。

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
T H I N K ・ A C T I O N	<p>○ 集めてきたダンゴムシの飼い方を話し合う。</p> <p>○ 餌をあげたり、観察したりして、ダンゴムシの世話をする。</p> <p>○ ダンゴムシを家に持ち帰り、自分で世話をしようとする。</p> <p>○ 園庭や家のそばで見つけた生き物に触れたり、その生き物の世話をしたりする。</p> <p>例:カマキリ カタツムリ アオムシ 等</p>	<p>◎ ダンゴムシを扱った絵本を読み聞かせたり、部屋に置いたり一緒に図鑑で調べたりして、興味・関心をもたせる。</p> <p>※参考図書 「ころちゃんはだんごむし」(高家博成作・仲川道子絵) 「やあ、出会えたね! ダンゴムシ」(今森光彦文・写真) 「ダンゴムシ そらをとぶ」(松岡達英作・絵) など</p> <p>◇ 「ダンゴムシはどんなところにいたかな。」と問いかけ、どうしたら飼うことができるか気付かせていく。</p> <p>◇ 幼児の言葉に共感し、工夫を受け止め、意欲を高める。</p> <p>◇ 家で飼いたいという幼児には、寒くなる前にダンゴムシをもといた場所に返すことの大切さも知らせていく。</p> <p>◆【環境に対する見方・考え方】 (思考・表現、必要な技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンゴムシを見付けたり触れたりする活動を楽しむ。 ・ ダンゴムシを長く飼う方法を自分なりに考えたり、図鑑で調べたりして世話をする。 ・ 気付いたことや感じたことを話したり、絵にかいたり動きで表現したりする。 <p>(気付き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生き物の様子から、自然の不思議さや面白さに気付く。 ・ 身近な生き物を大切にしようとする気持ちをもつ。 <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンゴムシを見る、飼うなどの活動を通して、身近な生き物の生命を感じたり、親しみをもって接したりする。

4 評価

- (1) 身近な生き物に関心を持ち、自分からかかわるとともに、生命のすばらしさや不思議さに感動し、生きている仲間として大切にしていたか。
- (2) ダンゴムシを見る、世話をする、育てるなどの活動を通して発見を楽しみ、気付いたことや感じたことを話したり、絵や動きなどで表現したりしていたか。

4 「アサガオとともだち」

1 単元目標

- (1) 2年生からもらった種からアサガオを自分で育てる活動を通して、自然の不思議さや面白さに気づき、命や自然を大切にしようとする心を育む。
- (2) アサガオの花や葉、蔓、種などを使って遊んだり、それらを使ってプレゼントや作品を作ったりすることを通して、身近な人々や自然とかかわり、親しむ。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 2年生からもらった種からアサガオを育てる活動に興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
見方・考え方 環境に対する 考え方	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> アサガオの花や葉、蔓を使った遊びや身近な人へのプレゼントを自分なりに考えたり、工夫したりする。 気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。
	環境に対する 気づき	<ul style="list-style-type: none"> アサガオの世話を続け、成長の変化を通して、自然の不思議さやおもしろさに気付く。 身近な自然や人々とかかわりの楽しさに気付く。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活が自然とかかわっていることに気づき、身近な生き物や自然を大切にしようとする。

3 単元計画【全14時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価	
F E E L	【4月:2時間】 <input type="checkbox"/> アサガオのたねをまこう。 <ul style="list-style-type: none"> 2年生からもらったアサガオの種のプレゼントを思い出す。 土づくりをし、鉢に土を入れる。 種を植え、周りに肥料を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> アサガオの種をもらった時の気持ちを振り返り、意欲付けをする。 土をこぼさないように少しずつ鉢に入れるよう助言する。 深さ2cmぐらいの穴を開けて種をまくよう指導する。 	
	【5月～9月:7時間】 <input type="checkbox"/> アサガオをそだてよう。 <ul style="list-style-type: none"> アサガオの新しい発見をする。 双葉、本葉、蔓、花を観察し、観察カードに書く。 アサガオの世話をする。 しおりを作る。 たたき染めをする。 色水遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気が付いたことを話し合う場を設定し、アサガオに関する発見を大切にする。 アサガオの生長に伴い、双葉、本葉、蔓、花の様子を観察するよう声をかける。 アサガオのつるの巻きつけ方、誘引の仕方を指導する。 アサガオがよく育つために、水あげの仕方、追肥の仕方について指導する。 	
	①		◆【環境についての感受性】
	②		・ アサガオを育てる活動や春から夏への変化に興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。
	③		◆【共生や思いやりの心】
	④		・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
	⑤		
	⑥		
	⑦		
⑧			
⑨			

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
THINK・ACTION	<p>【10月～12月:5時間】</p> <p>○ つくってあそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> アサガオのリースを作る。 <p>○ 新1年生へのプレゼントをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生からプレゼントをもらった時の気持ちを思い出す。 プレゼント作りをする。 夏に作ったしおりをプレゼントにしてもよい。 種ふくろを作り、種を入れる。 2年生になってから、新1年生への手紙を書く。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【その他の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあい給食会でのプレゼント作り (お世話になっている地域の方々へ) 近くの商店街への鉢植え植物を贈る活動 など </div> <p>○ あきさがしをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近のアサガオの変化を見付ける。 夏から秋への変化について発表する。 秋をさがしに行く。 春に行った公園に出かける計画を立てる。 校庭や公園で秋を見付け、集める。 秋の公園の様子をまとめる。 校庭や近くの公園にある植物についても、自分たちが一生懸命育てたアサガオと同じように命があることに気付き、大切にす 	<ul style="list-style-type: none"> リースの見本を見せ、意欲付けする。 どんなリースを作るか計画できるよう、計画カードを用意する。 作る途中で茎を切らないように助言する。 プレゼントされている時の写真を提示し、興味付けをする。 <p>◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> アサガオの花や葉、蔓を使った遊びや身近な人へのプレゼント作りを自分なりに考えたり、工夫したりすることを通して、自然に親しむ。 気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。 <p>〈環境に対する気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> アサガオや自然のものを使って遊んだりプレゼント作りをしたりすることを通して、自然の不思議さや面白さに気付く。 身近な自然や人々とかかわり、自分のよさや可能性に気付く。 <p>◆【環境についての感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> アサガオを育てる活動や夏から秋への変化に興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。 <p>◆【共生や思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。 <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活が自然とかかわっていることに気付き、身近な生き物や自然を大切にす

4 単元の評価

- (1) 2年生からもらった種からアサガオを育てる活動に興味・関心をもってかかわり、身の回りにある自然の不思議さや面白さ、命の大切さに気付くことができたか。
- (2) アサガオを使った遊びや身近な人へのプレゼントを自分なりに考えたり、工夫したりすることができたか。
- (3) 自分の頑張りやかかわりの楽しさに気付くことができたか。

5 「うごくおもちゃを作ろう」

1 単元目標

- (1) 身の回りにある不要になった牛乳パックや段ボールを再利用して動くおもちゃを作ることを通して、ものを無駄なく大切に使う心と心を育む。
- (2) 動くおもちゃを作る材料として、再利用して使える身の回りのものを探し出すことを通して、もの大切さに気付く。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 動くおもちゃの材料として、再利用して使える身の回りのものを探し出すことに興味・関心を持ち、自分から廃品を利用したおもちゃを作ろうとする。 ・ 身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの不要になったものを使って、自分なりに工夫しておもちゃを作ることを通して、再利用する大切さに気付く。 ・ 気付いたことや感じたことを言葉や動作などで表現する。
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りのものを再利用して動くおもちゃを工夫して作ることを通じて、再利用することは資源を大切にすることであることに気付く。 ・ 感じたことや気付いたことを基に、自分たちの生活を工夫する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にあるものを繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなどして、ものを大切にしようとする。

3 単元計画【全9時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L ①	<p>○ どんなおもちゃを作るか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな手作りおもちゃで遊ぶ。 ・ 自分の動くおもちゃを作るために、家にある牛乳パックや段ボールなど、身の回りにある不要になった物から材料集めをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 動くおもちゃの見本をいくつか提示し、おもちゃ作りの意欲付けをする。 ◇ 次時に向け、自分の作りたいおもちゃを決めておく。自分で作りたいおもちゃがある児童は自由に作ってもよいことにする。 ◆【環境についての感受性】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 動くおもちゃの材料として、再利用して使える身の回りのものを探し出すことに興味・関心を持ち、自分から廃品を利用したおもちゃを作ろうとする。 ◆【共生や思いやりの心】 <ul style="list-style-type: none"> ・ おもちゃの材料集めをすることを通して、身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
T H I N K ・ A C T I O N	<p>○ 自分だけのうごくおもちゃを作ってあそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が作りたいうごくおもちゃの設計図（計画書）を作る。 ・ ふうせんくじら（風）・牛乳パックのポート（水）・レーシングカー（ゴム）・さかなつり（磁石）・ことことねずみ（おもり）などのおもちゃを作る。 ・ 設計図に近付くような材料を選んで、形や大きさを工夫する。 ・ クレヨンやマジック等で色や模様を付ける。 <p>② ・ おもちゃがよく動くようにさらに工夫する。</p> <p>③ ・ 作ったおもちゃで遊ぶ。</p> <p>④</p> <p>⑤ ○「おもちゃ広場」の計画をたてよう。</p> <p>⑥ ・ 遊びのグループごとに、どんな広場にす</p> <p>⑦ るか話し合う。</p> <p>⑧ ・ 遊びのルールを決める。</p> <p>⑨ ・ おもちゃを改良して、遊びをひろげる。</p> <p>・</p> <p>○ 「おもちゃ広場」であそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルールに従って楽しく遊ぶ。 <p>○ まとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を振り返り、自分や友達の工夫に気付く。 ・ 作ったおもちゃの工夫を発表する。 ・ 身の回りのものを使って別のおもちゃを作る。 	<p>◇ 動くおもちゃの設計図を描くワークシートを準備する。</p> <p>◇ はさみや段ボールカッターなど、道具の使い方について安全面に配慮し指導する。</p> <p>◇ 製作に戸惑っている児童には、家から持ってきたものをどう生かしたいのか聞き取り、助言する。</p> <p>◇ 穴を開けにくいプラスチック製のものや分厚い材質のものを材料としている児童の作業を手伝う。</p> <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの不要になったものを使って、自分なりに工夫しておもちゃを作ることを通して、その面白さや自然の不思議さに気付く。 ・ 気付いたことや感じたことを言葉や動作で表現する。 <p>〈環境に関する気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りのものを再利用して動くおもちゃを作ることを通して、ものを大切にすることに気付く。 ・ 感じたことや気付いたことを基に、自分たちの生活を工夫する。 <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切にしようとする。

4 単元の評価

- (1) 動くおもちゃの材料として、再利用して使える身の回りのものを探すことに興味・関心をもってかかわり、身の回りにあるものの大切さに気付いたり、自然環境を大切にしたい思いをもったりすることができたか。
- (2) 身の回りのものを使って、動くおもちゃ作りを自分なりに考えたり、工夫したりすることができたか。
- (3) 身の回りにある再利用できるものを使って動くおもちゃを作ることから、ものの大切さに気付くことができたか。

6 「土ってふしぎだね」

1 単元目標

- (1) 野菜を育てることを通して、自然の不思議さや面白さに気付き、命や自然を大切にしようとする心を育む。
- (2) 土の中の様子を調べることを通して、土には植物が育つために必要な栄養や水を蓄えるなどの様々な力があり、養分を多く含んだ豊かな土が植物の生長に必要であることに気付く。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 野菜を育てる活動や土作りに興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
方・考 え方 見	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> 土作りをしたり、野菜の世話や観察を行ったりすることを通して、身近にある自然に親しみをもって継続してかかわろうとする。 土作りや野菜の観察をして気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> 鉢植えと花壇で育てた野菜の成長の違いや土の中の様子を観察することを通して、自然の不思議さや面白さに気付く。 身近な自然とかかわり、それらが生命をもっていること、変化や成長していることに気付く。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活が自然とかかわっていることに気付き、身近な生き物や自然を大切にする。

3 単元計画【全16時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ はるうえやさいをそだてよう。【5月】	◇ 春植え野菜は一人一鉢用意し、自分の春植え野菜に継続的にかかわることができるようにする。
	① 春植え野菜はミニトマト、ピーマン、ナス、オクラ、エダマメなどとする。	◇ 育てた野菜は収穫して食べることを知らせ、春植え野菜の成長に楽しみをもたせる。
	② 土作りをする。	◇ 年間通して観察記録するカードを用意する。
	③ 腐葉土、黒土、前年度の土を入れて土を作る。	◆【環境についての感受性】
	④ 苗の植え方を知り、植える。	・ 野菜を育てる活動や土作りに興味・関心をもち、自分からかかわろうとする。
	⑤ 継続して世話をする。	◆【共生や思いやりの心】
	⑥ 成長の様子を調べ、観察カードに記録する。	・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
	⑦ 収穫する。	

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
TH IN K ・ AC TI ON	<p>○ 土ってふしぎだね。</p> <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土に給食の残菜など食べられるものと、ポリエチレン袋など食べられないものとはを埋める。 ・ 土の中に埋めたものがどうなるか予想する。 ・ 鉢植えと花壇で育てた野菜の育ち方を比べて気付いたことを発表する。 <p>【9月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土の中に入れたものを掘り返す。 ・ 気付いたことを観察カードに記録する。 <p>○ あきうえやさいをそだてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋植え野菜は、ハツカダイコン、コマツナ、アブラナなどとする。 ・ 育てる野菜について話し合い、種をまく。 ・ 継続して世話をする。 ・ 成長の様子を調べ、観察カードに記録する。 ・ 収穫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 土に入れたものを3カ月後に掘り返すことを伝え、興味を持続させる。 ◇ 土に入れる前に、給食の残菜やポリエチレン袋を画像に残しておき、掘り返した時に提示して比較できるようにする。 ◇ 児童の予想をカードに記録させておき、土を掘り返した時に再度提示して比較できるようにする。 ◇ 土にかえるものとそうでないものがあることや、栄養豊かな土が植物の成長に必要であることにつながる児童の気づきを紹介する。 <p>◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土作りをしたり、野菜の世話や観察を行ったりすることを通して、身近にある自然に親しみをもって継続してかかわろうとする。 ・ 土作りや野菜の観察をして気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。 <p>〈環境に対する気づき〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉢植えと花壇で育てた野菜の生長の違いや土の中の様子を観察することを通して、自然の不思議さや面白さに気付く。 ・ 身近な自然とかかわり、それらが生命もっていること、変化や成長していることに気付く。 <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの生活が自然とかかわっていることに気づき、身近な生き物や自然を大切にすること。

4 単元の評価

- (1) ミニトマトや秋植え野菜を育てる活動に興味・関心をもってかかわり、身の回りにある自然の不思議さや面白さ、命の大切さに気付くことができたか。
- (2) 鉢植えと花壇で育てた野菜の成長の違いや土の中の様子を観察することを通して、土には植物が育つために必要な栄養や水を蓄えるなどの様々なが力があり、養分を多く含んだ豊かな土が植物の成長に必要なことに気付くことができたか。
- (3) 野菜を育てることや土の中の観察を通して、自分たちの生活が自然とかかわっていることに気付くことができたか。

認識・問題把握期（小5・小6・中1）編

■ 認識・問題把握期の学習のねらいと学習活動例一覧

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度				
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方			環境に働きかける 実践力
			環境に対する 思考・判断	問題解決に必要な 技能・表現	環境に対する 知識・理解	
認識・問題把握期	中1 小6 小5	○環境に関わる事象に、直面させるとともに、因果関係や相互関係の把握、課題解決能力を育成する。				
		<ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域や目下の社会が抱える環境問題について、自分の生活と関連付けてとらえ、興味・関心をもってかかわることができる。 ●自分も自然界の一員であることを意識し、自分を取り巻く環境を大切にしようとする心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な地域や日本の自然環境、社会環境の中から自ら課題を見付けることができる。 ●自ら見付けた課題と世界の様々な地域の環境問題に関連付けて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目的を明確にし、取材活動やインターネットなどから、情報を収集・選択することができる。 ●集めた情報をもとに、グラフや図表などを用い、課題や自分の考えを筋道を立て、発表などを通して表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本や世界の自然環境や社会環境をめぐる様々な問題について、人々の生活とのかかわりをもとに、その原因・実態を理解することができる。 ●人間の環境に対する責任や使命を自覚し、身近な場面にも自分たちができる環境改善や保全に向けた取り組みがあることに気づき、理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境改善や保全について学習した内容をもとに、自らの生活様式を改善し、実践することができる。 ●自らも「未来に持続する社会」の一員であることに気づき、積極的に地域社会の環境改善・保全活動に参加することができる。

●活動事例

No.	1	活動名	植物と森林のはたらきについて考えよう			活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性	保全
概要	FEEL		THINK		ACTION		
	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や森林の働きとは何だろう。 ・植物や森林を取り巻く問題について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の植物や森林の様子について調べよう。 ・植物や森林が直面している環境問題について調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 		
No.	2	活動名	食べ物とわたしたちの暮らしについて考えよう			活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性	保全
概要	FEEL		THINK		ACTION		
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食材の生産地を調べよう。 ・食糧不足に悩む国の暮らしを知ろう。 ・食べ物を取り巻く問題について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・小麦と食べ物を取り巻く環境について調べよう。 ・エコクッキングにチャレンジしよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 		
No.	3	活動名	エネルギーとわたしたちの暮らしについて考えよう			活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性	保全
概要	FEEL		THINK		ACTION		
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気について知ろう。 ・電気と環境負荷について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の温暖化防止の取り組みについて調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 		
No.	4	活動名	地域の産業とわたしたちの暮らしについて考えよう			活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性	保全
概要	FEEL		THINK		ACTION		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地球年表を作ろう 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業と環境とのかかわりについて調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 		
No.	5	活動名	日本の国立公園や世界遺産について調べよう			活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性	保全
概要	FEEL		THINK		ACTION		
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の素晴らしい自然や文化遺産について知ろう。 ・ユネスコの活動について調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国立公園や世界遺産について調べよう。 ・地域遺産を認定しよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 		
No.	6	活動名	私の学校のエコ宣言			活動に要する時間	15時間程度
環境をとらえる視点		循環	多様性	生態系	共生	有限性	保全
概要	FEEL		THINK		ACTION		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の環境家計簿を付けよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・Kids ISOに取り組もう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して分かったことを次年度の学校版ISOに引き継ごう。 		

1 「植物と森林のはたらきについて考えよう」

1 単元目標

- (1) 植物や森林の働きについて調べる活動を通して、植物や森林が直面する環境問題を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林の働きを自分の生活と関連付けてとらえ、森林を取り巻く環境問題を解決するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 人の生活と植物とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 森林を取り巻く問題を身近な地域や自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本、世界の環境とのかかわりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林の働きについてインターネットや実験、調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。 植物や森林の働きについて、インターネットや実験、調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林を守るための身近な取り組みについて知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。 植物や森林をめぐる様々な問題について、その原因や実態を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 植物や森林を守るための身近な取り組みについて知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 植物や森林の働きとは何だろう。 ・ 光合成 ・ 食糧生産 ・ 生き物たちのすみか	◇ 植物や森林の働きについて、概要資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、植物や森林の働き、森林が直面する環境問題を実感的にとらえられるようにする。
	○ 植物や森林を取り巻く問題について知ろう。 ・ 焼畑農業、家畜の放牧、木材利用、酸性雨による被害 等	◆【環境についての感受性】植物や森林のもたらす恩恵について知り、自分の生活がそれらに影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】植物や森林とともに生活していく大切さがわかる。
	① ② ③	・ 保水、水質浄化 ・ 土砂の流出防止 ・ 紙、木材 等

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価	
T H I N K	④	○ 学校や地域の植物や森林の様子について調べよう。 ・ 学校や地域の植物や森林が生活にもたらす豊かさ ・ 身近な植物が受けている影響 ・ 「自分の木」を決めて、葉、花、幹の様子、実香り、かかわりをもつ生き物、周辺の様子について観察する。(季節による継続観察可) ・ 「自分の木マップ」の作成	◇ 植物や森林がもたらす恩恵について自らの生活と関連させてとらえさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 学年、校種を越えて継続観察させる際には、発達段階に応じた観察の視点を明確にする。 ◇ 関係機関との連携を図る。	
	⑤			
	⑥	○ 植物や森林が直面している環境問題について調べよう。	◆【環境に対する見方・考え方】	
	⑦	・ 焼畑農業、家畜の放牧、木材利用、酸性雨による被害等の中から、課題を選択し、森林保全の取り組みとともに調べる。	〈思考・判断〉	
	⑧	・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。	・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 植物や森林に起こる変化とその要因について考えることができる。	
	⑨		〈技能・表現〉	
	⑩		・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。	
	⑪		〈知識・理解〉	
	⑫		・ 自分にもできる植物や森林を守るための取り組みがあることを知る。 ・ 植物や森林を取り巻く問題の実態と原因を理解する。	
	⑬			
	A C T I O N	⑭	○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 植物や森林を守り育てていくために自分で取り組めることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。
		⑮		◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、植物や森林を守るための取り組みを実践できる。

4 単元の評価

- (1) 植物や森林のもたらす恩恵や植物や森林とともに生活していく大切さについて知るとともに、自分の生活がそれらに影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができたか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 植物や森林の様子や働き、植物や森林が直面する問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組むことができたか。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 植物や森林を守り育てる取り組みを実践できたか。(活動状況の分析)

2 「食べ物とわたしたちの暮らしについて考えよう」

1 単元目標

- (1) 食べ物と生活とのかかわりについて調べる活動を通して、食べ物を取り巻く問題を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物を自分の生活と関連付けてとらえ、食べ物を取り巻く問題を解決するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 ・ 人の生活と食べ物とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物を取り巻く問題を自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 ・ 身近な環境と東京都や日本、世界の環境とのかかわりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料生産や流通、消費の様子、それらが環境に与える負荷についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。 ・ 食料生産や流通が環境に与える負荷について、インターネットや調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷の少ない食糧確保のための身近な取り組みについて知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。 ・ 食べ物をめぐる様々な問題について、その原因や実態を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷の少ない食糧確保のための身近な取り組みについて知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 身近な食材の生産地を調べよう。 ・ 日本各地や世界に広がる食料生産 ・ 流通方法 ・ フードマイレージによる食べ物と環境負荷との関連	◇ 新聞の折り込み広告等、身近な食品の生産地が分かる資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、食料不足に悩む国の暮らしや食べ物を取り巻く問題を実感的にとらえられるようにする。
	○ 食糧不足に悩む国の暮らしを知ろう。 ・ 食べ物の大切さや有り難み ○ 食べ物を取り巻く問題について知ろう。 ・ 食料生産と環境 ・ 気候の変化と食料生産との関連	◆【環境についての感受性】自分たちの食べ物が世界とつながっていることについて知り、自分の食生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】食べ物の大切さがわかる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価		
T H I N K		○ 小麦と食べ物を取り巻く環境について調べよう。 ・ 世界に広がる生産地 ・ 自給率 ・ 輸送方法や距離と環境負荷 ・ 国産小麦の現状 ・ パン工場の様子 ・ 小麦を使った世界の食事 ・ スローフード	◇ 日本の食生活の実態を自らの生活と関連させてとらえさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◇ 家庭科学習や栽培活動との関連を図る。		
	④	・ 小麦を使った伝統食	◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連づけて考えることができる。 〈技能・表現〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈知識・理解〉 ・ 環境に配慮した食生活の実現に向けて自分にもできる取り組みがあることを知る。 ・ 食べ物を取り巻く問題の実態と原因を理解する。		
	⑤	・ 旬の食材			
	⑥	・ 地産地消の考え方			
	⑦	・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。			
	⑧	○ エコクッキングにチャレンジしよう。			
	⑨	・ 食べ物を育てよう			
	⑩	・ 生産地に留意した食材の選択			
	⑪	・ 節水や省エネルギーに留意した調理法			
	⑫	・ ゴミの処理と後片づけ			
	⑬				
	A C T I O N	⑭		○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 環境負荷の少ない食生活をしていくために自分で取り組めることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。
		⑮			◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、食べ物を大切にするための取り組みを実践できる。

4 単元の評価

- (1) 食べ物の大切さや自分たちの食生活の実態について知るとともに、自分の食生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができたか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 食材の生産や流通、調理方法と食べ物を取り巻く問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組むことができたか。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 環境負荷の少ない食生活に向けての取り組みを実践できたか。(活動状況の分析)

3 「エネルギーとわたしたちの暮らしについて考えよう」

1 単元目標

- (1) エネルギーと生活とのかかわりについて調べる活動を通して、エネルギー消費や地球温暖化にかかわる問題を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費を自分の生活と関連付けてとらえ、地球温暖化問題を解決するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 人の生活とエネルギー消費とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化にかかわる問題を自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本、世界の環境とのかかわりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費の様子や地球温暖化問題についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。 エネルギー消費の様子や地球温暖化問題について、インターネットや調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや地球温暖化防止の身近な取り組みについて知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや地球温暖化防止の身近な取り組みについて知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 電気について知ろう。 ・ 発電方法と化石燃料 ・ 電気と温室効果ガスの排出 ・ 自然エネルギーを利用した発電 ・ 家庭や学校での電力使用の様子	◇ 発電の仕組みや発電所の場所等が分かる資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、発電の仕組みや電力消費と環境負荷を実感的にとらえられるようにする。
	○ 電気と環境負荷について知ろう。 ・ ヒートアイランド現象 ・ 身近な節電方法	◆【環境についての感受性】自分たちの生活を支える電気が世界とつながっていることについて知り、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】省エネルギーに配慮した生活の大切さがわかる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価	
T H I N K		○ 地域の温暖化防止対策について調べよう。 ・ 地域温暖化マップ作り ・ 温度の高い地点、低い地点の周りの様子の特徴について ・ 東京電力、東京ガス等による出前授業の活用 ・ 地域のエネルギーの使われ方 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬	◇ 地域の温暖化の実態を自らの生活と関連させてとらえさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 地域の人々の思いや願いに目を向けさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連づけて考えることができる。 〈技能・表現〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈知識・理解〉 ・ 省エネルギーや地球温暖化防止の取り組みについて自分にもできるがあることを知る。	
	A C T I O N	⑭ ⑮	○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 省エネルギーや地球温暖化防止の取り組みの中で自分にできることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 ◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、省エネルギーや3Rの取り組みを実践できる。

4 単元の評価

- (1) 発電や電力消費の実態について知るとともに、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性があることを率直に受け止めることができたか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) エネルギー消費や地球温暖化問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組むことができたか。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 省エネルギーや地球温暖化防止に向けての取り組みを実践できたか。(活動状況の分析)

4 「地域の産業とわたしたちの暮らしについて考えよう」

1 単元目標

- (1) 地域の産業と生活とのかかわりについて調べる活動を通して、産業を取り巻く問題を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 地域産業を自分の生活と関連付けてとらえ、産業にかかわる問題を解決するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 人の生活と産業とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 産業にかかわる問題を自分の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本、世界の環境とのかかわりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 産業の様子や環境に与える負荷についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。 産業の様子や環境に与える負荷について、インターネットや調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや3Rの身近な取り組みについて知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや3Rの身近な取り組みについて知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 地球年表を作ろう	◇ 46億年に及ぶ地球の歴史のほんのわずかな期間における人類の活動が環境に大きな変化をもたらしたことを視覚的にとらえさせる。
	・ 地球の歴史と環境とのかかわり ・ 人類の活動と環境とのかかわり ・ 未来についての予測	◇ 地球年表については詳細なものになりすぎないよう配慮する。
		◆【環境についての感受性】自分たちの生活を地球の長い歴史の中で見つめ、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】省エネルギーに配慮した生活の大切さがわかる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	○ 地域の産業と環境とのかかわりについて調べよう。 ・ 地域産業マップ作り ・ 産業を支えるエネルギー ・ エコマーク商品について ・ 地域産業が行っている環境への配慮 ・ 公害(大気・騒音・水質汚濁等) ・ 地域産業を支える人々の思いや願い ・ 地域の過去と現在の様子の比較 ・ 周りの人へのインタビュー、調査、実験などの結果をまとめに取り入れる。 ・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。	◇ 地域産業の実態を自らの生活と関連させてとらえさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 働く人々の思いや願いに目を向けさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断〉 ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連づけて考えることができる。 〈技能・表現〉 ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 〈知識・理解〉 ・ 省エネルギーや3Rの取り組みについて自分にもできるがあることを知る。			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 省エネルギーや3Rの取り組みの中で自分にできることを考え、行動として表す。	◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 ◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、省エネルギーや3Rの取り組みを実践できる。
				⑮		

4 単元の評価

- (1) 発電や電力消費の実態について知るとともに、自分の生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができたか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 地域産業や産業を取り巻く問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組むことができたか。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 環境負荷の少ない生活に向けての取り組みを実践できたか。(活動状況の分析)

5 「日本の国立公園や世界遺産について調べよう」

1 単元目標

- (1) 日本の国立公園や世界遺産について調べる活動を通して、日本の豊かな自然や歴史を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園や世界遺産の実態を知り、貴重な自然や文化遺産を守り育てていくための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 人の生活と地域の環境とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園や世界遺産を取り巻く問題を見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本、世界の環境とのかかわりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園や世界遺産についてインターネットや調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。 日本の国立公園や世界遺産について、インターネットや調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然や文化遺産を守り育てていくための取り組みを知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。 自然や文化遺産にかかわる様々な問題について、その原因や実態を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然や文化遺産を守り育てていくための取り組みを知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 世界の素晴らしい自然や文化遺産について知ろう。 ・ 知っていることについて話し合う。	◇ 視聴覚資料を活用し、世界の自然や文化遺産、ユネスコの活動を実感的にとらえられるようにする。
	○ ユネスコの活動について調べよう。 ・ 世界の自然遺産や文化遺産保護のための取り組み ・ 世界遺産の認定基準	<p>◆【環境についての感受性】世界の自然や文化遺産のすばらしさを率直に受け止めることができる。</p> <p>◆【共生や思いやりの心】自然や文化遺産を守り育てていく取り組みの大切さがわかる。</p>

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の国立公園や世界遺産について調べよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 ・ 国立公園や世界遺産となった理由 ・ 自然の様子や歴史的背景 ・ 国立公園や世界遺産を守る取り組み ・ 国立公園や世界遺産にかかわる人々の思いや願い ・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。 ○ 地域遺産を認定しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に残る貴重な自然や文化遺産の調査 ・ 周りの人へのインタビュー、調査の結果をまとめて取り入れる。 ・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 日本の国立公園や世界遺産の実態を環境と関連させてとらえさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 情報収集、実験や観察の方法について例示する。 ◇ 関係機関との連携を図る。 ◇ 野外活動における安全への配慮 <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・判断〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連づけて考えることができる。 <p>〈技能・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 <p>〈知識・理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園や世界遺産を守るために自分にもできる取り組みがあることを知る。 ・ 国立公園や世界遺産を守る取り組みを取り巻く問題の実態と原因を理解する。 			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 ・ 国立公園や世界遺産を守るために自分にもできる取り組みを考え、行動として表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分や友だちが調べた内容を踏まえて行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 <p>◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で国立公園や世界遺産を守るための取り組みを実践できる。</p>
				⑮		

4 単元の評価

- (1) 世界の自然や文化遺産のすばらしさを率直に受け止めるとともに、それを守り育てていく活動の大切さがわかったか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 日本の国立公園や世界遺産、地域の貴重な自然や文化について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組むことができたか。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 自然環境や社会環境を守り育てる取り組みを実践できたか。(活動状況の分析)

6 「私の学校のエコ宣言」

1 単元目標

- (1) 学校が与える環境負荷と自分たちの学校生活とのかかわりについて調べる活動を通して、環境問題を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 身近な自然環境や社会環境から見いだした問題について、共生や思いやりの視点から解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 学校が与える環境負荷を自分の学校生活と関連付けてとらえ、環境負荷を軽減するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 学校生活と環境とが深く関わり合っていることに気付き、共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 環境にかかわる問題を自分の学校生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的に考えることができる。 身近な環境と東京都や日本の環境とのかかわりに気付き、自分の生活と環境との関連について考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 学校が与える環境負荷について、観察や調査などを活用して、自ら情報を収集・選択することができる。 学校が与える環境負荷について、観察や調査などをもとに図表等を用いてまとめ、筋道立てて自分の意見を発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや3R、節水などの身近な取り組みについて知り、自分たちにもできることがあることについて理解する。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーや3Rの身近な取り組みについて知り、自分の生活の中で実践できる。

3 指導計画【全15時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。
	○ 学校の環境家計簿を付けよう。 ・ 複数の項目について、使用量や排出量を調査し、それを二酸化炭素排出量に置き換える。	◇ 使用量や排出量を二酸化炭素排出量に換算する資料を提示する。 ◇ 環境家計簿は複数回作成し、比較検討する中から課題を見出せるようにする。
	○ 環境家計簿の作成は、1週間単位または1ヶ月単位で複数回実施。 ・ 環境家計簿からわかることを話し合う。	◆【環境についての感受性】自分たちの学校生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】省エネルギーや3Rに配慮した生活の大切さがわかる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価			
T H I N K	④	<ul style="list-style-type: none"> ○ Kids ISOに取り組もう。 ・ 学校が環境に及ぼしている影響を調べる。(校庭の樹木、給食の残滓、水道使用、ゴミの量、電力消費等) ・ 学校環境をよくするための具体的な目標を立てる。(落ち葉を集めて腐葉土づくり、給食残滓0の取り組み、節電・節水の実行等) ・ 目標を宣言するポスター等を作成して校内に周知。 ・ 実践活動 ・ 活動記録 ・ 目標や活動修正のための話し合い ・ 達成度の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域環境への影響については、よい点、悪い点の両面に目を向けさせる。 ◇ 具体的な目標については、数値目標としてあげられるようにする。 ◇ 協働的な取り組みとなるよう、子どもたちの共通理解、組織作りを図る。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにさせる。 ◇ 活動計画を立てさせる。 ◇ 他校の取り組み等との情報交換の機会を与える。 ◇ 短・中期的な活動評価を実施し、目標や活動についての修正が図れるようにする。 ◇ 関係機関との連携を図る。 <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・判断〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を明確にして学習課題を見付けることができる。 ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連づけて考えることができる。 <p>〈技能・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を明確にして、課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を図や表などに加工し、自らの考えを表現できる。 <p>〈知識・理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーや3R、節水などの身近な取り組みについて自分たちにもできることがあることを知る。 			
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	A C T I O N			⑭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を通して分かったことを次年度の学校版ISOに引き継ごう。 ・ 活動を焦点化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今年度の成果や課題を明らかにして、行動につなげられるようにする。 ◇ 行動目標は実行可能な内容になるようにする。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 <p>◆【環境に働きかける実践力】自分の生活の中で、省エネルギーや3Rの取り組みを実践できる。</p>
				⑮		

4 単元の評価

- (1) 自分たちの学校生活が環境に影響を及ぼす可能性のあることを率直に受け止め、省エネルギーや3Rに配慮した生活の大切さがわかったか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 環境負荷を軽減する学校生活について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題解決の活動に取り組むことができたか。(課題設定とその理由の分析、ワークシート記述内容、情報収集の方法と的確さ、事実に基づいた理解)
- (3) 環境負荷の少ない生活に向けての取り組みを実践できたか。(活動状況の分析)

評価・意思決定期（中2・中3）編

■ 評価・意思決定期の学習のねらいと学習活動例一覧

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度				
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方			環境に働きかける 実践力
			環境に対する 思考・判断	問題解決に必要な 技能・表現	環境に対する 知識・理解	
評価・意思決定期	中3 中2	○環境問題を総合的に思考・判断し、賢明な選択・意思決定が行えるような学習活動を設定し、環境保全や環境の改善に主体的に働きかける能力や態度を育成する。				
		<p>【環境を身近なものとしてとらえる感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地球規模の環境問題を自分の生活と関連付けてとらえ、興味・関心をもってかかわることができる。 <p>【共生や他者に対する思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人と自然とが相互に関係し合っていることを意識し、自然や多様な人々との共生を大切にしようとする心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日の生活の中から、地球環境に大きな影響を与えている問題を見付け出し、解決方法について考えることができる。 ●地球環境と身近な環境とのかかわりに目を向けて、環境を構成する一員として、自らの考えを深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題についてインターネットや実験などから、自ら情報を収集・検証・選択することができる。 ●地球規模の環境問題について、インターネットや実験などの情報ソースを組み合わせ、自分の考えをまとめ、効果的に発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の自然・社会環境をめぐる様々な問題について、現状や歴史的・経済的背景を理解することができる。 ●人類も地球環境を構成する一員であることを自覚し、その開発には重い責任を伴うことを認識することができる。 ●「未来に持続する社会」に向けて、世界の人々の工夫や努力を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地球市民としての自覚をもち、環境改善・保全にかかわる諸外国や各自治体の様々な活動に共感をもち、積極的に参加することができる。 ●「未来に持続する社会」の視点に立ち、家庭や学校、地域におけるアクションプランを策定し、環境を守り育てる活動を実践することができる。

●活動事例

No.	1	活動名	地球規模の環境問題とわたしたちの生活との関連を考えよう		活動に要する時間	10時間程度
環境をとらえる視点		循環 多様性 生態系 共生		有限性 保全		
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地球に今何が起きているの？ 環境問題について知っていることを話し合い、現実を見つめよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった環境問題について深く調べてみよう。 ・環境問題が未来に与える影響について予想しよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表内容について自らの考えをもとう。 ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 	
No.	2	活動名	環境問題対策を私たちから発信しよう		活動に要する時間	10時間程度
環境をとらえる視点		循環 多様性 生態系 共生		有限性 保全		
概要	FEEL		THINK		ACTION	
	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの子どもたちの環境への取り組みについて知ろう。 ・様々な環境問題対策について知ろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区や各自治体、企業、世界各国の環境問題対策の取り組みについて調べよう。 		<ul style="list-style-type: none"> 友だちの発表内容について自らの考えをもとう。 ・興味をもった環境問題対策の取り組みに参加してみよう。 ・アクションプランを作成し、発信しよう。 ・参加した感想についてまとめ、発表する。 	

1 「地球的規模の環境問題とわたしたちの生活との関連を考えよう」

1 単元目標

- (1) 地球的規模の環境問題について調べる活動を通して、環境問題を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 自らの生活の中から地球環境に大きな影響を与えている問題を見付け出し、共生や思いやりの視点から問題解決に向けての具体的手立てをまとめ、自らの暮らし方を改善していく実践行動につなげる。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球的規模の環境問題を自分の生活と関連付けてとらえ、「環境にやさしい暮らし方とは何か」という問題を解決するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 ・ 人と自然や社会とが深く関わり合っていることに気付き、自然や多様な人々との共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する見方・考え方	環境に対する思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境に影響を与えている問題を毎日の生活の中から見付け出し、その解決方法を具体的な行動として考えることができる。 ・ 地球環境と身近な環境とのかかわりに目を向けて、自分の生活も環境の一つの要素であると考えられることができる。
	問題解決に必要な技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題についてインターネットや実験、調査などを活用して、自ら情報を収集・検証・選択することができる。 ・ 地球的規模の環境問題について、インターネットや実験、調査などから自分の考えをまとめ、効果的に発表できる。
	環境に対する知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境を構成する一員として、自分の暮らし方を見つめ、暮らし方には環境に対する責任のあることがわかる。 ・ 世界の自然・社会環境をめぐる様々な問題について、現状や歴史的・経済的背景を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境にやさしい暮らしとは何かを知り、自らの暮らし方を積極的に改善できる。 ・ 「未来に持続する社会」の視点に立って家庭や学校におけるアクションプランを考え、環境を守り育てる活動を実践できる。

3 指導計画【全10時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L ① ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。 ○ 地球に今何が起きているの？ 環境問題について知っていることを話し合い、現実を見つめよう。 ・ 地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、海洋汚染、森林減少、砂漠化等について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。 ◇ 6つの地球規模の環境問題について、概要資料を提示する。 ◇ 視聴覚資料を活用し、環境問題を実感的にとらえられるようにする。 ◆【環境についての感受性】自分の生活が環境に影響を与えていることについて率直に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】環境問題に直面している人々の思いを共有できる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
T H I N K	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味をもった環境問題について深く調べてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べてみたいことと自分の生活との関連を考える。 ・ インターネットを活用して情報を集める。 ・ 環境問題の歴史的、経済的背景を調べる。 ・ 周りの人へのインタビュー、調査、実験などの結果をまとめに取り入れる。 ・ 自分ができる具体的な生活改善プランを考える。 ・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って効果的に発表する。 ○ 調べた環境問題が未来の地球に与える影響を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 課題を選択した理由について明確にさせる。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにして問題解決活動が進められるようにする。 ◇ 情報収集の方法について例示する。 ◇ 環境問題と自らの生活との関連性について明らかにさせる。 <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・判断〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生活の中から地球的規模の環境問題の課題を見付け出すことができる。 ・ 自らの生活と環境との関連について考えることができる。 <p>〈技能・表現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な情報ソースから課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を効果的に加工し、自らの考えを発表できる。 <p>〈知識・理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にも環境に対する責任があることを知る。 ・ 環境問題を多面的に理解する。
	A C T I O N	⑨ ⑩	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの発表内容について自らの考えをもとう。 ○ 学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球的規模の環境問題を解決するために自分で取り組めることを考え、行動として表す。【改善行動】 ・ 未来に向けてよりよい環境を築き、育てていくために自分で地域社会において取り組めることを考え、行動として表す。【発展行動】

4 単元の評価

- (1) 自分の生活が環境に影響を与えていることについて率直に受け止めるとともに、環境問題に直面している人々の思いを共有することができたか。(エコスタイルチェック記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 地球的規模の環境問題について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題を解決することができたか。(課題設定とその根拠の分析、情報収集方法の多様性、環境問題に対する自分なりの思いや願いをもとにした理解)
- (3) 自分の生活の改善について、具体的な行動として提言できたか。(提言内容の分析)

2 「環境問題対策を私たちから発信しよう」

1 単元目標

- (1) 世界各国や各自治体、企業等における環境問題対策の取り組みについて調べる活動を通して、環境問題対策を身近なものとしてとらえる感受性を育む。
- (2) 自らの思いや願いをもって、持続可能な社会の構築の視点から実践可能な環境問題対策について、家庭や学校、地域に対して提言する。

2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> 様々な環境問題対策を自分の思いや願いをもって受け止め、「自分にできることは何か」という問題を解決するための活動に興味・関心をもってかかわることができる。 環境問題対策にかかわる人々の考え方に共感し、自然や多様な人々との共生の心をもって、自らの生活行動を見つめ直すことができる。
環境に対する 見方・ 考え方	環境に対する 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題対策を毎日の生活と関連づける中から問題を見付け出し、その解決方法を具体的な行動として考えることができる。 自分の生活から環境を改善できると考えることができる。
	問題解決に必要な 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 様々な環境問題対策についてインターネットや実験、調査などを活用して、自ら情報を収集・検証・選択することができる。 様々な環境対策について、インターネットや実験、調査などのから自分の考えをまとめ、効果的に発表できる。
	環境に対する 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な社会の構築」に向けて、世界各地の人々の工夫や努力を理解できる。 様々な環境問題対策について、現状や歴史的・経済的背景を理解できる。
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> 各自治体や団体の環境問題対策の活動に共感し、積極的に参加することができる。 「未来に持続する社会」の視点に立って家庭や学校、地域におけるアクションプランを考え、環境を守り育てる活動を実践できる。

3 指導計画【全10時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	① ○ エコスタイルチェックで自分の生活を見つめ直そう。 ② ○ オーストラリアの子どもたちの環境への取り組みについて知ろう。 ・ オーストラリアが直面する環境問題。 ・ 同年代の子どもたちの主体的な活動の様子。 ③ ○ 様々な環境問題対策について知ろう。 ・ 環境に関わる国際条約(京都議定書、ラムサール条約等)の内容。 ・ 企業や自治体の省エネルギー活動 ・ NPO団体の活動	◇ 他者との競争でなく、自らの生活を素直に見つめさせる。 ◇ 視聴覚資料を活用し、オーストラリアの子どもたちの取り組みを実感的にとらえられるようにする。 ◇ 条約や条例には具体的な行動目標が示されていることに気付かせる。 ◇ 環境問題対策に取り組む人々の思いや願い、その成果について触れる。 ◆【環境についての感受性】様々な環境問題対策の取り組みを共感的に受け止めることができる。 ◆【共生や思いやりの心】環境問題対策に取り組む人々の思いや願いを共有することができる。

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
T H I N K	④	○ 板橋区や各自治体、企業、世界各国の環境問題対策の取り組みについて調べよう。 ・ 板橋エコポリスセンターや環境省のHPから自治体の取り組みについて情報を得る。 ・ オーストラリアの学校との交流(オーストラリア大使館を通じて) ・ インターネットを活用して世界各国や企業の取り組みについて情報を得る。	◇ 情報収集の方法について例示する。 ◇ 自分なりの思いや願いを明らかにして問題解決活動が進められるようにする。 ◇ 環境問題対策の取り組みの中に、自分たちの参加の視点を位置付けさせる。 ◇ 企業等の訪問について調整する。
	⑤ ⑥ ⑦	・ 自分の生活とのつながりについて考え、まとめに生かす。 ・ 調べたことをレポートや新聞、プレゼンテーションソフトなどを使って効果的に発表する。	◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・判断〉 ・ 自らの生活との関連性を明らかにして、課題を見付け出すことができる。 〈技能・表現〉 ・ 多様な情報ソースから課題解決に必要な情報を得ることができる。 ・ 得られた情報を効果的に加工し、自らの考えを発表できる。 〈知識・理解〉 ・ 環境問題対策に取り組む人々の思いや願いについて理解する。 ・ 環境問題対策を多面的に理解する。
A C T I O N	⑧ ⑨ ⑩	○ 友だちの発表内容について自らの考えをもとめよう。 ○ 興味をもった環境問題対策の取り組みに参加してみよう。 ・ 3Rの学校や家庭、地域における実践。 ・ リサイクル活動の実践。 ・ 板橋エコポリスセンターの環境学習講座への参加。 ・ 環境教育に関する各コンクールへの参加。 ○ 参加した感想についてまとめ、発表する。 ○ 家庭や学校、地域におけるアクションプランを作成し発表する。	◇ 自分が調べた内容を踏まえて意見が述べられるようにする。 ◇ 自分の興味・関心に沿って、参加する環境問題対策の取り組みを選択できるようにする。 ◇ 環境問題対策への子どもたちの参加が「未来に持続する社会」の構築につながるという、自信と誇りをもたせるよう賞賛する。 ◇ ①時に実施したエコスタイルチェックを振り返らせる。 ◆【環境に働きかける実践力】現状を「未来に持続する社会」の視点からとらえ、環境改善に向けて、具体的に行動できる。

4 単元の評価

- (1) 環境問題対策の取り組みの様子や、それにかかわる人々の思いや願いを共感的に受け止めることができたか。(エコスタイルチェックやワークシート記入内容、話し合い活動における発言分析)
- (2) 様々な環境問題対策を調べる活動について、自ら課題を設定し、見通しある学習計画を立てて、よりよく問題を解決することができたか。(課題設定とその根拠の分析、情報収集方法の多様性、自分なりの思いや願いをもとにした理解)
- (3) 環境問題対策の取り組みに積極的に参加できたか。(活動状況、感想における発言内容の分析)